

芸能

東京新聞 (夕刊)

平和で勢いある時代彷彿

音楽

澤田研二の全国ツアーに元タイガースのメンバー森本太郎、岸部一徳、瞳みのるが参加して、懐かしいヒット曲がよみがえった。

幕開けは「ミスター・ムーンライト」「ドゥ・ユー・ラブ・ミー」など一九六〇年代の洋楽ヒット曲のカバー。解散以来四十年ぶりにステージ復帰したピーこと瞳がドラムをたたく。サリーこと岸部がベースを響かせる。タローこと森本がギターを鳴らす。歌うのはジユリー、沢田研二である。

デビュー曲「僕のマリー」はじめ、「モナリザの微笑」「銀河のロマンス」と往年のヒット曲が続く。タローも洋

沢田研二LIVE 2011~2012

楽のカバー「ピコーズ」を歌った。一部ラストは瞳がカバー曲「ジャスティン」。今年六十五歳になる元高校教師・瞳は童顔にスリムな体。遠目には現役当時のままで、叫んで跳びはね、会場を沸かせた。



元ザ・タイガースのメンバー3人をゲストに迎え、ライブで熱唱する沢田研二(中)。左は岸部一徳、右は森本太郎

二部は「淋しい雨」「花の首飾り」「青い鳥」「シーサイド・バウンド」。少年のように華奢な瞳のパワフルなドラム、岸部の力強いベースに驚く。アンコールの「シー・シー・シー」「ラヴ・ラヴ・ラヴ」まで全二十四曲、総立ちの同世代ファンと熱い二時間をつらやかせた。

「この日が無事迎えられるうれしい。また四人でやれてシアワセです」。沢田はメンバーで最も若い六十三歳。かっぶくの下さに時の流れを感じることが、高度成長期、平和で勢いのある時代を彷彿させるステージだった。年明けの武道館まで、全国三十八カ所を回る。

(渡辺芳子＝音楽ジャーナリスト)

●8日 東京国際フォーラム